



清らかな空気と豊かな自然に育まれ 「美星の自然薯」まっすぐ育ちました

自然薯作りのきっかけは

農家の長男に生まれて、小さな頃から自然に農業に慣れ親しんできました。

農業関係の仕事に就き、ちょうど定年を迎えた頃、地元美星町に特産品を作るといふ話がありました。

どんな農産物が土地に合うのか、行政やJA、関係各所と一緒に考えるなかで「自然薯」を栽培することに。

自然薯部会の発足

平成14年から試験的に自然薯を栽培し、翌年に「美星自然薯部会」が発足しました。



部会発足時、20人の部会員と共に地域の特産品作りを始めました。

本格的に栽培を始めて

自然薯は、農産物の中では比較的手間が掛からない作物です。5月〜6月に5cmほどに切った種芋を、雨どいのような形のケースに入れ横にのびるように手作業で植えていきます。芽が出るとツルのように伸びるので、畑全体にネットを掛けてツルを上らせませす。その後、2〜3回病害虫防除をしますが、水やりはほとんど必要ありません。他の作業といえば、雑草を取るぐらいでしょうか。11月〜12月に収穫後、順次出荷していきます。

美星は高原地で土質も赤土に近い粘土質です。自然薯にはミネラルが豊富で適しています。時季のもので中々手に入らないこともあり、手土産に持って行くの大変喜ばれて、そんな時は私も嬉しく思います。

異常気象の影響

今年は、7、8月の高温や9月の雨続きの影響で日照不足になるなど、生長が著しく悪い年となりました。



私個人的には、例年より粘りとコクがあり味はバツグンだと思っておりますが、出荷規格に満たないものが多く、昨年は収穫したうち80%が商品として出荷できましたが、今年は50%ほどにとどまりそうです。

今後は

「美星の自然薯」の魅力を皆さんに届けられるよう、部会員を増やして産地として維持していきたいと思っております。

興味のある方は、JA岡山西美星支店までお問い合わせください。

TEL 0866-187-2402

美星自然薯部会

部会員数：6人

部会長：金高 利久さん

主な出荷先：JA岡山西管内の直売所、星の郷青空市

日照時間が長く昼夜の温度差が大きく、水はけも良い、育成に適した地質で育った「美星の自然薯」はまさに大自然の逸品です。

素朴な味と、独特の粘りのある『美星の自然薯』の美味しさをご賞味ください。



【美星自然薯部会】

金高 利久さん

かねたか としひさ / 78歳

就農して16年 / 自然薯5a、水稻1.2ha、他野菜等50aを経営。